

福井県子連



通信

第14号

(全正会員・市町事務局)

 **新年 あげましておめでとうございます** 

本号は2ページ構成です

令和4年度の締めくくりと令和5年度企画が始まる時期となりました。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

昨年10月、11月に永く福井県子ども会育成研究大会理事を務め、広く子ども会活動に貢献された下記の方々の受賞式がありましたので、ご披露します。

受賞披露

文部科学大臣表彰【社会教育功労賞】 越前町 上野 重隆 氏

知事表彰【青少年活動推進功労者】 永平寺町 田中 治和 氏

 おめでとうございます 

12月11日(日)に開催された県子ども会育成研究大会では、アンケートに河村先生への質問が2件ありました。それについて河村先生からメールで回答をいただいているので紹介します。

【質問 1】

私の地域には「子ども会」が存在していません。子ども会の代わりとなる活動を学校・PTA・公民館を連携して実現できないかと考えていますが、全国的にそのような事例があれば教えていただきたい。児童の放課後をうまく利用したい。

【回答】

子ども会がない地域で活動を広げられようとしていることに敬意を表します。

子ども会は形がきっちり決まっている組織ではありません。地域の実情に合わせて子どものための活動を進められれば良いと思います。

もし、大人の組織があるのなら(無ければ有志で)、まずは、なにか行事を企画してみてもいかがでしょうか。最初は苦勞が多いと思います。世の中にはお金を払えば提供されるものはたくさんありますが、子どもの遊びを中心とした集団活動を標ぼうしている組織は他にはないと思います。必要であるし需要もあると思います。

子どもの成長のために運動場や図書館が必要なように、人間としての成長の機会を与える「子ども会」という場も必要だと考えています。しかしそれはいつも「子ども会」という組織の中の定型的な枠組みではないと思っています。少し活動の内容・方法について柔軟に考えるだけでも連携活動は広げられるのではないのでしょうか。

<事例①>

学校との連携の実例ですが、私の知人の地区では小学校でウィークエンドスクールという取組みがあります。小学校ごとに行われる子供向けのカルチャースクールと理解しています。ここで提供されているコンテンツは、

遊びの達人、お話会、スーパードッジボール、ダンス、ネイチャー、パステルアート、歌リズム、将棋、食育・料理、折り紙・切り紙、俳句、発明・発見、和太鼓、(以上、原文より抽出)

このうちいくつかは、子ども会または子ども会関係者が提供しているということです。学校は場所と「もの」を提供し、募集は学校・子ども会の双方で行うということです。このような活動は子ども会単



体ではできないし、学校単体でも無理です。なので、教育委員会が音頭を取って地域の画工と青少年団をつなぐような運営委員会を組織しているということです。

<実例②>

また、別の実例としては、公民館の活動にジュニアリーダーが継続的に参加しており、見方によれば子ども会というより公民館でのボランティア活動ですが、そこで知り合った子どもたちを逆に子ども会活動に誘導することができたそうです。ジュニアリーダーズクラブ（JLC）が地域の祭りに継続的に参加しているという例もあります。

PTA との連携という実例は聞いたことがありません。PTA の構成員である親が子ども会の育成会のメンバーと重複するからではないかと想像しています。

多くの場所で、子どもに対して何かを提供できる人・見守ることができる人を求めているのは間違いありません。子ども会がその受け皿になることも可能だと思いますし、子ども会自ら空間と活動を提供できると思います。子どもたちの活動を見守り育てる考え方・しくみが子ども会だと思っています。

（以上、河村先生の回答より一部省略の上掲載）

★もう1つの質問とそれに対する回答は次号で紹介する予定です。

 12.11 県子ども会育成研究大会写真掲載中 

（県子連事務局）〒918-8135 福井市下六条町14-1
福井県生活学習館内（火～金 9時～4時45分）
TEL：0776-41-3908 FAX：41-3916
メールアドレス：fcdomokai@ia0.itkeeper.ne.jp



県子連 HP→